

第4回安曇野市行政改革推進委員会 会議概要

1	審議会名	第4回安曇野市行政改革推進委員会
2	日時	平成21年5月25日(月) 午後1時30分から午後3時まで
3	会場	市役所堀金総合支所 3階301会議室
4	出席者	白澤亀内会長、浅川文彬副会長、小口憲政委員、尾台ゆみ委員、武井辰雄委員、牛山宣久委員、加々美孝男委員、花村薫委員、佐々木一夫委員、林茂子委員、唐沢武志委員
5	市側出席者	坂内総務部長、西澤行政改革推進室長、等々力同室々長補佐、平林同室係長
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人 記者 2人
8	会議概要作成年月日	平成21年6月2日

協議事項等	
1	会議の概要
	(1) 開会 (浅川 副会長)
	(2) 会長あいさつ (白澤 会長)
	(3) 議事 ・ 平成20年度行政改革の取組み結果について
	(4) その他 ・ 本年度の行政改革推進委員会の開催予定について
	(5) 閉会 (浅川 副会長)
2	審議概要
	副会長：委員13名のうち、本日は11名の出席であり、安曇野市行政改革推進委員会設置条例第5条第2項の規定に従い会議は成立していることを報告する。
	同じく、第5条第1項の規定に従い白澤会長が議長となり議事進行を行なう。
	(1) 協議事項
	○平成20年度行政改革の取組み結果について 「平成20年度安曇野市行政改革取組み結果」を事務局が説明する。(20年度行政改革取組み状況の集計表は最終頁に添付)
	委員：学校予算物件費の経費削減について、一括契約を行うことで、大変良い結果が出た。現場でもそれに対する支障はなかったなので、この点は高く評価する。
	委員：「ホームページの充実」について、評価は達成ということになっているが、実際の受け手側の市民の評判、満足度というものをチェックの中に入れて欲しい。市役所担当者の独りよがりにならないよう、改善したなら改善したりの内容が市民にとってどうであったかを評価の中に入れて欲しい。
	事務局：市のホームページの内容について、市担当者の評価だけでなく受けて側の市民の評価も取組み結果の報告に入れる検討をするよう担当課に伝えたい。

委員：そのチェックする方法として、市民の代表者を予め何人か選んでおいて、そういう人の意見を市民の代表の声として取り入れる手法として欲しい。

会長：いわゆる市民の人たちにどうやって情報を伝達していくかも含めて、今の方法、ご意見のあったことを十分取り入れていただければと思う。

委員：穂高は昨年10月に市民活動センターがオープンした。今後5地区全部に同センターができるのか。穂高の同センターに実際私も行って見たが、非常に素晴らしい所だと感じた。

事務局：5カ所に造るのか把握してなくて申し訳ない。担当課に確認してからご報告します。

委員：いよいよ動きだしている、行革が進んできたという実感があり、委員としては嬉しく思う。今回の報告について、達成・未達成を含めて、項目ごとにやり易さ、進め易さの違いがある。おそらく、担当する部局長の姿勢や熱意の違いがでていいる。そうではなくても進捗状況に全体的にばらつきがある。それらも含めて、役所内での調整作業及び推進体制を確認したい。どんな頻度でどのように行われているか。この会議の報告も兼ねてということになると思うが、市民の反応など、それらを総合的に調整しながら進めていく必要がある。こういう皆が嫌がる行政改革が、皆の合意を得ることは、これから先難しい問題が出てくるが、それを成立させる鍵となるような気がする。

事務局：市には、行政改革推進本部会議がある。市長をトップとした組織である。今回の報告をするとともに、来年以降の新しい行財政大綱、行政経営行革プランを策定するための会議を開催したい。昨年度については総括的に一回、3月に開催した。回数が少なかったことを反省している。市役所の中的全職員が情報共有できる庁内ラン(情報ネットワーク)を通して、周知や啓発を行っている。本年度は、前回(平成18年度)の行財政改革大綱を策定したときと同様に本部会議を何回か開くことになる。

会長：組織だから、いろいろの部局に所管が分かれているのは当たり前だが、その中の連携というものは非常に大事で、やはり達成目標がだいたい並行して水準が高まっていくことが一番望ましい。必ずしも財政的に考えて効率が良くなる悪くなる、そういうことが多少出てくるかもしれないが、やはり相対的には全部の部局が上昇してくということが望ましい。その辺りをまた気にしながら進めていって欲しい。

委員：市民と行政の協働は、非常にこれから大事な課題になっていくと思う。市民によって自主的に構成される「まちづくり推進会議」とはどのようなものを想定しているか。それが行政とどのように関わっていくのか。規模などイメージを教えてください。

事務局：担当に確認してから報告します。

委員：先日の新聞に「メタボ腹たたいみれば改革の音がする」と載っていた。今何でも改革と言っている。本当の改革の哲学を掘り下げてみる必要がある。たとえば電子入札も結構であるが、今自治体には、ほとんど重機材がない。大きな災害が起きて、誰かから手伝ってもらおうとしても東京とか埼玉の業者は飛んで来てくれない。いい工事というのは仕上りがよくて適正価格で早くできるということだ。5,000万以下の工事は安曇野市内に本店もしくは有力な支店、事務所がある業者ということだけど、地元業者の育成というのはやっぱり考える必要があると思う。先日〇〇市の旧村部の町会長さん達と話し合う機会があった。「私達は〇〇と〇〇と〇〇と〇〇で、身の丈が同じ町村の人たちと合併して一つの市を作った方がよかったと思っている。」と言っていた。要するに同じ農村型同士の合併である。「何か〇〇市の中心部のために我々が働いて税金納めているような感じがする。」と言っていた。改革という言葉を見直す必要がある。電子入札ということだけに拘ることなく、この安曇野を子の代、孫の代まで守っていくことが今一番大事かと思う。皆さんがご存知のとおり、この豊科や穂高も皆シャッター通りになっている。松本に行っても、建材業者等でもほとんど長野とかよそから来ている。もう一度豊かな安曇野を取り返すために、どういう形の改革が必要か、少しバックすることも必要ではないかと思う。ただ前に進むだけではなくて、腹を据えてやらないと、あと40年50年後には自治体が変わってしまう。先日も話したが、40年前に信毎が出した本には、長野県内で財政の豊かな村が大滝村と安曇村とあった。水力発電(固定資産税)で、すごく潤っていた。ところが40年経ったら、日本で下から二番目になってしまったということだ。だから時代の先をよく見通してしっかりした計画を立てないといけない。よそで改革をやっているからうちでも改革をやるということではなくて、どういうことをやったら安曇野市の人口が増えていって、安曇野の魅力が高まるのか、もう一度しっかり考えてみる時期ではないかと思う。

会 長：「行政改革」といっても、行政という言葉がついているから、必ずしも行政だけということではなく、やはり地域が人に、時代に合った改革をしていくことが一番大事ではないかと思う。

事務局：委員からいただいた本日の質問等については、担当課に確認したうえ、文書で後日回答します。

会 長：事務局が本日説明した平成20年度の行革取組み結果について、ご理解いただいたか。よろしければ、その取組み結果を公表する形を取る。

委 員：よろしい。

(2) その他

本年度の行政改革推進委員会の開催予定について、事務局から、本年度の行政改革推進委員会の開催について予定を説明する。

本年度は、行財政改革大綱の見直しなど集中的に審議してもらう必要があるので、委員の都合などを確認する。

閉 会

副会長のあいさつで閉会となる。

平成20年度行政改革の取組みの実施状況(集計)

行政経営改革プラン			実施状況(件数)			
重点項目	具体的施策	取組み目標数	達成	一部達成	未達成	未着手
市民との協働による市政の推進	広報・広聴の充実	2	2			
	市民参加システムの構築	2	1		1	
健全な財政基盤の確立	経費の削減	11	8	2	1	
	自主財源の確保	7	5		2	
定員管理・給与の適正化	定員管理の適正化	2	1		1	
	給与の適正化	3	2		1	
業務の効率化	事務の効率化	1	1			
	事務事業の見直し	6	4		2	
スリムで柔軟な組織・人事体制の構築	組織の効率化	4	4			
	職員の意識改革	2	1			1
	既存団体(外郭団体等)の見直し	4	2		2	
公共施設の効果的利用	効率的な管理運営	3	1		2	
計		47	32	2	12	1
20年度目標達成度(%)			68.1%	4.3%	25.5%	2.1%